

3. 胃癌に対する腹腔鏡手術の普及促進

オリンパス株式会社

【目的】

ベトナムにおける、胃癌に対する腹腔鏡手術の普及促進。

【活動内容】

- ・当該手術手技がベトナムにおいて安全に効果的に普及、進歩できるよう日本内視鏡外科学会による知見、研修ノウハウ、経験の移転にベトナム内視鏡外科学会と協力し取り組む。
- ・本研修のトレーニングカリキュラム作成、講師および見学施設選定に際しては日本内視鏡外科学会の協力を仰ぐ。

【期待される成果や波及効果等】

- ・日本で実施されている最新の手技や、日本にて導入されている教育システムが講義や実技を通してベトナムを代表する医師達に理解されること。
- ・その後、ベトナムにて実施される研修の質的向上につながることで、その結果、将来的にはベトナムにおける腹腔鏡下胃癌手術の手技レベル向上および患者 QOL の向上につながることで。

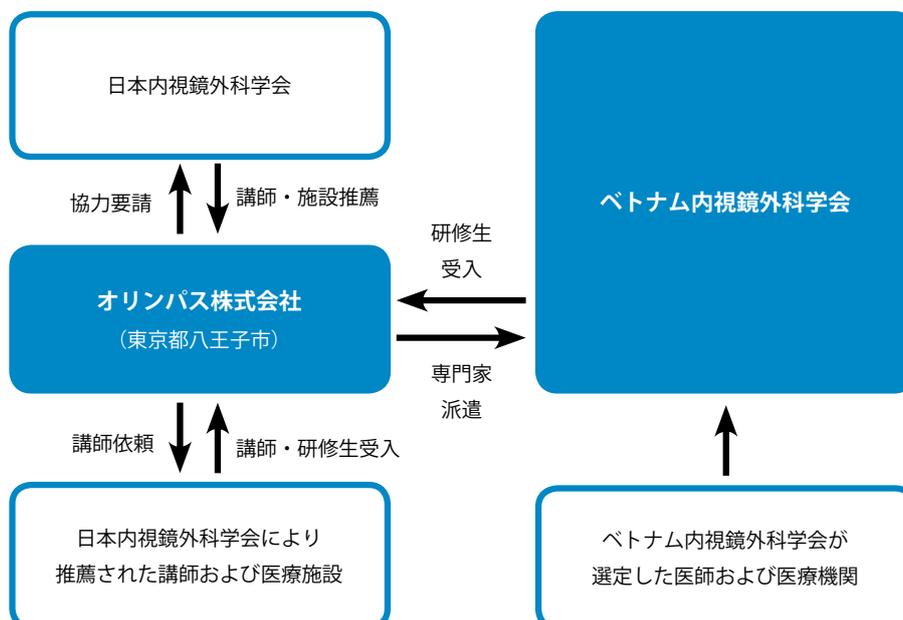
<研修実施結果>

7-9月 研修生受入 (20名)

- ・日本の技術認定制度研修
- ・腹腔鏡下手術の実技研修
- ・臨床見学 他

10月 専門家派遣 (4名)

- ・胃癌治療に関するセミナー開催



弊社ではベトナムにおきまして、胃癌に対する腹腔鏡手術の研修事業を実施しましたので、ご報告させていただきます。

背景ですが、ベトナムでも胃癌に対する腹腔鏡手術自体は施行されております。拠点施設におきましては、研修施設が開設されるなど、積極的な取り組みも進められておりますが、独自の取り組みでは手術手技の確立や、トレーニング方法の標準化などが進まない状況にありました。

一方、日本は胃癌に対する外科手術の4割以上は腹腔鏡で行われています。学会の取り組みとして、技術認定制度や手術施行にあたってのガイドラインが制定されており、学会主催のワークショップや研究会なども積極的に開催されております。そのような背景から、ベトナムの医師たちから日本に支援してほしいという声が聞こえてまいりましたので、弊社にて本事業を実施させていただくことになりました。

概要としては、当該手術手技がベトナムにおいて安全に効果的に普及、進歩できるように、日本内視鏡外科学会による知見、研修ノウハウ、経験の移転にベトナム内視鏡外科学会と協力して取り組むこと、そして本研修のトレーニングカリキュラム作成、講師および見学施設選定に際しては日本内視鏡外科学会の協力を仰いでおります。

期待される成果は、日本で実施されている最新の手技や、日本で導入されている教育システムが、講義や実技を通してベトナムを代表する医師たちに理解されること、そしてその後ベトナムにて実施される研修の質的向上につながることで、その結果として将来的にベトナムにおける腹腔鏡下胃癌手術の手技レベル向上および患者QOLの向上につながることを挙げております。

University Medical Centerの2つの医療施設で講義および手技実習を行いました。手技実習は、VietDuc University Hospitalのみで行いました。こちらは現地の学会長の施設で、もう1つのUniversity Medical Centerは副学会長の施設ということでこちらの2つの施設にいて開催することとなりました。

実績報告

1, 外国人研修生の受入

- (1) 研修生 : ベトナム内視鏡外科学会(VAES)選定の医師 20名
- (2) 講師 : 日本内視鏡外科学会(JSES)選定の4名:
 瀧口修司 先生 大阪大学
 江原一尚 先生 埼玉県立がんセンター
 大平寛典 先生 国際医療福祉大学
 須田康一 先生 慶應義塾大学
- (3) 主な内容 :
 - ・講義 最新の腹腔鏡下胃癌手術紹介、技術認定制度の紹介 など
 - ・ビデオクリニック 研修生代表による症例発表、講師による講評
 - ・手技実習 3D、4K内視鏡システムなどを用いた腹腔鏡下胃癌手術実習
 - ・臨床見学 エキスパートによる臨床見学

まず外国人研修生の受け入れですが、ベトナム内視鏡外科学会選定の医師20名が来日しました。講師は、日本の学会選定の4名の先生にお願いしております。主な内容ですが、講義では最新の腹腔鏡下胃癌手術や技術認定制度を紹介しました。ビデオクリニックを開催しまして、研修生が普段行っている手術のビデオを紹介し、講師による講評を行いました。現地の手術レベルの把握という意味でも非常に役立った研修でした。手技実習では、弊社の3D、4K内視鏡システムなど最新機器を用いた内視鏡下胃癌手術の模擬実習を行いました。その後、臨床見学ということで、エキスパートによる胃癌手術の見学を2回行いました。

実績報告

1、実施研修概要

- (1) 外国人研修生の受入: 2016年8月27日~31日
 - ① 講義及び手技実習
オリパス研修センター(八王子市)
 - ② 施設訪問、臨床見学
埼玉県立がんセンター
藤田保健衛生大学病院
- (2) 日本人専門家の派遣: 2016年10月3日~5日
 - ① 講義及び手技実習
VietDuc University Hospital (Hanoi)
University Medical Center (Ho Chi Minh City)

実績報告になります。外国人研修生の受け入れと日本人専門家の派遣を1回ずつ行いました。外国人研修生の受け入れについては、8月末に実施しまして、講義および手技実習は弊社の研修センターで行いました。施設を訪問して行う臨床見学は、埼玉県立がんセンターと藤田保健衛生大学病院の2施設を訪問させていただきました。

10月上旬に行った日本人専門家の派遣では、ハノイ市にあるVietDuc University Hospitalとホーチミン市にある

実績報告

1, 外国人研修生の受入



こちらが外国人研修生の研修の様子です。講義やビデオクリニックをこのような感じで実施しました。手術室には大勢では入れませんので、埼玉県立がんセンターでは、一部の研修生は右下の写真のように別室のモニターに手術の映像を映しながら見ていただくようにしました。院長先生や講師の先生も別室にいらっやって、映像を見ながら色々ご指導いただく貴重な機会となりました。

実績報告

2, 日本人専門家の派遣

- (1) 研修生 : ベトナム内視鏡外科学会(VAES)選定の医師
開催施設の医師 (オブザーバー参加)
総数: 76名
- (2) 講師 : 日本内視鏡外科学会(JSES)選定の4名:
宇山一朗 先生 藤田保健衛生大学
柴崎 晋 先生 藤田保健衛生大学
須田康一 先生 慶應義塾大学
前田祐助 先生 慶應義塾大学
- (3) 主な内容 :
・ 講義 最新の腹腔鏡下胃癌手術紹介、技術認定制度の紹介 など
・ ビデオライブ 無編集症例ビデオを用いた手技解説
・ 手技実習 3D、4K内視鏡システムなどを用いた腹腔鏡下胃癌手術実習

次に日本人専門家の派遣についてご報告します。研修生の総数は76名ですが、これは実際に受付にてサインが取れた人数で、実際にはもっと多くの研修生が参加しております。派遣した講師は、学会が選定した4名の先生になります。内容は、基本的には日本での研修生受け入れ時に準じたものになっておりますが、今回はビデオライブを行いました。ビデオライブは、日本の学会でもよく行われていますが、講師が無編集の症例ビデオを流して、重要なポイント毎に解説を加えていく講習です。手技の流れが把握でき、ディスカッションしながら重要なポイントを学べる利点がございます。

実績報告

2, 日本人専門家の派遣

(1) ハノイ



こちらがハノイでの研修風景になります。現地の大型ビジョンが非常に素晴らしく、また院内での事前アナウンスが行き届いており、このように立ち見が出る中で講義を始めることができました。右上は VietDuc 病院に開設されました手技実習センター、ウェットラボです。使用されるのが今回の研修が初めてでしたので、お披露目の機会となりました。初使用だったこともあってか、2回か3回ブレーカーが落ちて中断することになりましたが、なんとか無事に終わることができました。最初に講師の先生に模擬手術を見せていただいたのですが、その様子はテレビ会議システムを通じて別室でより多くの研修生が見られようになりました。弊社の3D、4K内視鏡システムなどを使った実習を行いました。

実績報告

2, 日本人専門家の派遣

(2) ホーチミンシティ



こちらはホーチミンでの研修の様子です。こちらでは講義のみ行い、多くの研修生に参加していただきました。講師の先生がご自身の手術を記録したビデオを流して、重要なポイントを解説しながら、質問に答えるというビデオライブなど実施しました。

成果

- 日本における最新に腹腔鏡下胃癌手術や学会の技術認定制度、内視鏡下外科手術施行にあたってのガイドラインなどについてエキスパートによる講義や手技実習、ディスカッションを通して理解を深めることができた
- 研修生より、各自の症例ビデオを用いて日常施行している手技を紹介してもらうことで、現地の手技レベルをよく理解でき、そのレベルに基づいた指導やディスカッションを行うことができた
- 実際に、日本の最新機器が設置された施設を見学し、エキスパートによる手術を見学することで、日本の高い医療技術について実感してもらうことができた

成果ですが、日本における最新の腹腔鏡下胃癌手術や日本内視鏡外科学会の技術認定制度、腹腔鏡下外科手術施行にあたってのガイドライン、などについてエキスパートによる講義や手技実習、ディスカッションを通して理解を深めることができました。また、研修生に各自の症例ビデオを用いて日常施行している手技を紹介してもらうことで、現地の手技レベルをよく理解でき、そのレベルに基づいた指導やディスカッションを行うことができました。そして実際に、日本の最新機器が設置された施設を見学し、エキスパートによる手術を見学することで、日本の高い医療技術について実感してもらうことができたと考えております。

課題

- この研修で学んだことが、今後現地学会が実施する医師研修に反映されること、その結果現地医師の手技レベルが向上し、さらには患者QOL向上につながる、といった成果が得られるには時間がかかる。今後も現地学会の活動状況をウォッチングし、本事業の成果として実現するよう継続的に支援を行う
- 日本のエキスパートによる質の高い教育支援が継続的に行われれば最新の腹腔鏡下胃癌手術が普及する素地はあると思われた。現地学会も、日本の学会からの継続的支援を強く期待しており両国学会の連携が継続的に行われるよう働きかけたい。当社も、公募事業の積極活用等により、日本学会からの教育機会の創出、現地における教育環境の充実などに、引き続き取り組む

OLYMPUS

最後に課題になります。課題というよりも抱負です。冒頭に目標として、この研修で学んだことが、現地学会が今後実施する医師研修に反映されたり、その結果として現地

医師の手技レベルが向上したり、患者 QOL の向上につながることを挙げましたが、実際このような成果が得られるには時間がかかります。今後も現地学会の活動状況をウォッチングし、本事業の成果として実現するよう継続的に支援を行いたいと考えております。

また、日本のエキスパートによる質の高い教育支援が継続的に行われれば、最新の腹腔鏡下胃癌手術が普及する素地はあると考えられます。現地学会も、日本の学会からの継続的支援を強く期待しておりますので、両国学会の連携が継続的に行われるよう働きかけていきたいと思っております。当社も、公募事業の積極活用等によって日本学会からの教育機会の創出や現地における教育環境の充実などに引き続き取り組んでまいりたいと思っております。

以上になります。ありがとうございました。